

Ⅱ. 日本・中国青年親善交流事業「日中代表ユースフォーラム」

第Ⅰ章	日本・中国青年親善交流事業「日中代表ユースフォーラム」
事業概要	

<目的>

日本・中国青年親善交流事業は、昭和 53 年の日中平和友好条約の締結を記念し、日本及び中華人民共和国（以下「中国」という。）の両国青年の相互の友好と理解の促進を図ることを目的として、両国政府が共同して実施している。本事業は、日本と中国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本の青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的としている。

令和 2 年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の傾向が収まらず、参加青年の安全を確実に確保することは困難と判断せざるを得ないことから、「日本・中国青年親善交流事業」を含む、令和 2 年度の内閣府青年国際交流事業はすべて中止としたところである。しかしながら、現代はオンラインの活用により海外の青年同士が瞬時につながることができる時代でもあり、こうしたインターネット技術を活用し、代替的な国際交流の場、そして新しい試みとして日本・中国青年親善交流事業「日中代表ユースフォーラム」を開催することとした。

<実施概要>

- ◆本事業はオンラインにて実施した。

(1) ディスカッションテーマ及びサブテーマ

「ウィズコロナ時代に求められる日中青年の役割」

(サブテーマ)

- ◆ソフトパワー(文化)
- ◆働き方
- ◆日中交流
- ◆科学技術(医療・防災)
- ◆教育

(2) 日本参加青年の参加資格及び求める人物像

- ◆おおむね 18 歳から 30 歳までの日本国籍を有する者
- ◆中国に対する興味・関心があり、積極的に交流する意欲がある。
- ◆主体性を持ってプログラムにのぞむことができる。
- ◆中国代表青年との交流にふさわしい発言・言動ができる。
- ◆事業参加後も継続して中国青年と交流し、日中友好に貢献できる。

(3) 参加青年人数

日本参加青年 25 名

中国参加青年 25 名

(中国参加青年は中国側が選考)

(4) 日程

- ◆ オンライン事前研修
 - 1 日目: 令和 2 年 11 月 15 日(日)
 - 2 日目: 令和 2 年 11 月 29 日(日)
 - ※両日とも 13:00~17:00 で実施
- ◆ 中国青年とのオンライン交流「日中代表ユースフォーラム」
 - 令和 2 年 12 月 12 日(土)
 - ※日本時間 11:00~17:30 で実施
- ◆ オンライン事後研修
令和 2 年 12 月 20 日(日) 13:00~17:00
- ◆ オンライン事業報告会
「日韓青年親善交流のつどい@オンライン」と合同で実施:
令和 3 年 3 月 13 日(土) 14:00~17:30

※プログラム実施:

内閣府との契約により、一般財団法人青少年国際交流推進センターが実施に当たった。

事業評価アンケート

I 趣旨

日本・中国青年親善交流事業は、昭和54年度に開始された事業である。

本事業は、日本と中国の青年相互の友好と理解の促進を図ることを目的とし、日本政府と中国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の友好と理解を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中国政府と協議の結果、当初予定していた派遣・招へいによるプログラムを中止し、オンラインにて「日中代表ユースフォーラム」を実施することとし、同フォーラムにて、基調講演、日中青年同士のグループ別ディスカッション、成果発表会等を行った。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、事前研修及び事後研修時に、能力向上等に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から6段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

II 評価結果

1. 事業目的の達成度

①プログラムの満足度

「【交流プログラム本番】満足度を教えてください。」との問いに対して、日本参加青年は84%が5段階評価の4以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは「現地青年との交流を通じて、メディアだけでは知り得ないことを知ることができ、また、彼らの考え方や情熱に触れることで自分自身を鼓舞するきっかけとなった」「中国の学生と何か一つのテーマに対して議論し合うという機会は今回が初めてで、リアルな声を聞くことができて有意義な時間を過ごすことができた」とのコメントがあった。

このことから、オンライン上であっても中国の青年と交流を行うことが中国に対する友好や理解を深め、プログラムの満足度の向上に寄与したと考察できる。

②事前研修の満足度

「【事前研修】満足度を教えてください。」との問いに対して、日本参加青年は92%が5段階評価の4以上を付け、極めて高い評価であった。

日本参加青年からは「座学の時間が非常に有意義であった。また、過去の団の先輩方との対話等も通じて、現代中国事情、本プログラムの目的や当日のイメージについて理解を深めることができた」「意見交換会に向けた基礎講座や実践講座などで実際に積極性を求められる場面が多く、それが自分自身の課題克服のための良い機会となった」とのコメントがあった。

このことから、交流プログラム本番で相手のことをよく理解するために、相手国の文化や考え方を事前に学び、プログラムへのイメージを深めることが非常に重要であると考察できる。

③事後研修の満足度

「【事後研修】満足度を教えてください。」との問いに対して、日本参加青年は92%が5段階評価の4以上を付け、極めて高い評価であった。

日本参加青年からは「自分がグループにどう貢献できていたのか心配していたので、メンバーの意見を聞いて良かった」「振り返りの時間があることで、他者から見た自分の長所や短所について再認識することができた」とのコメントがあった。

このことから、参加青年たちが互いに評価し、考えを共有できる事後研修は非常に有益であることが分かる。ま

た、参加青年たちは所属するグループの中で各々が役割を見出し、それぞれ貢献したいという意識が芽生えていたことも分かった。

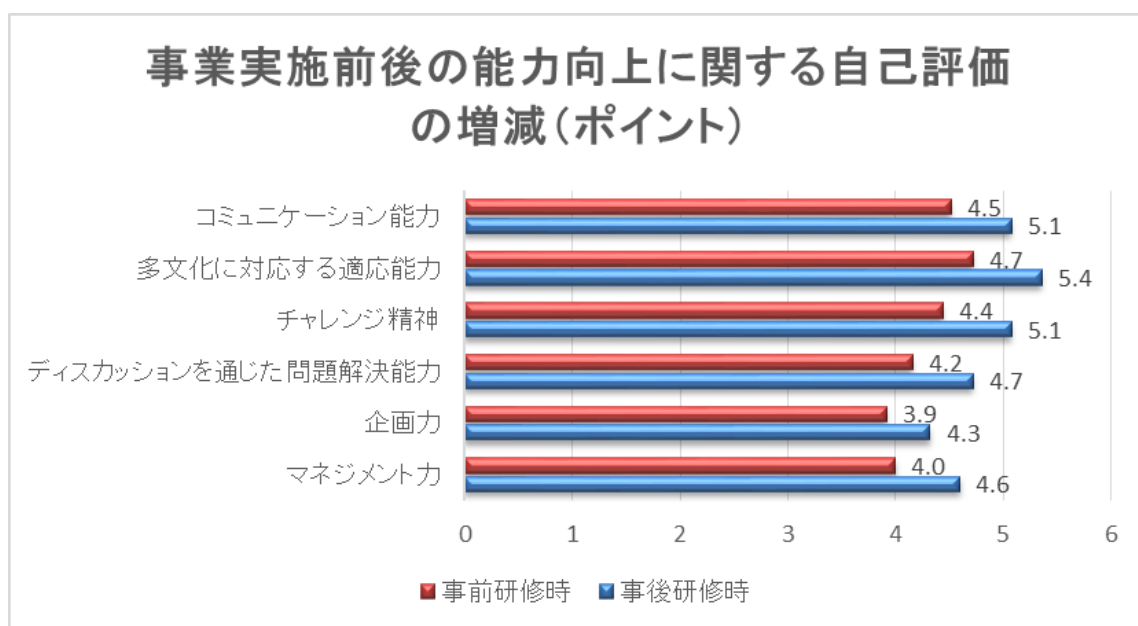
2. 日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での能力の成長の変化について6段階（6=十分備えている、5=備えている、4=ある程度備えている、3=あまり備えていない、2=備えていない、1=全く備えていない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- ・「コミュニケーション能力」：
4.5 から 5.1 となり、0.6 ポイントの増。
- ・「多文化に対応する適応能力」：
4.7 から 5.4 となり、0.7 ポイントの増。
- ・「チャレンジ精神」：
4.4 から 5.1 となり、0.7 ポイントの増。
- ・「ディスカッションを通じた問題解決能力」：4.2 から 4.7 となり、0.5 ポイントの増。
- ・「企画力」：
3.9 から 4.3 となり、0.4 ポイントの増。
- ・「マネジメント力」：
4.0 から 4.6 となり、0.6 ポイントの増。

（ポイント数については、小数第二位を四捨五入）



伸び幅が最も大きかったのは、「多文化に対応する適応能力」と「チャレンジ精神」であった。「多文化に対応する適応能力」は、オンライン交流において中国参加青年の異なる文化や、ディスカッション方法の違いを目の当たりにし、その差異を認めつつどのように進行するかを日本青年それぞれが考え、対応したため向上したものと考察できる。

また、「チャレンジ精神」は、日本青年のほとんどが初めてオンライン交流に参加する中で、それぞれが事前にできることを最大限考え、取り組んだことで向上したものと考察できる。

その他の項目も軒並み上昇しており、本事業への参加が個人の能力の向上に大きな影響を与えていることが分かる。

②個人の意識の変化

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での意識の変化について6段階（6=非常にそう思う、5=そう思う、4=ややそう思う、3=あまりそう思わない、2=そう思わない、1=全くそう思わない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- ・「今後、海外に留学してみたい。」：
5.3 から 5.4 となり、0.1 ポイントの増。
- ・「今後、海外で働いてみたい。」：
5.6 から 5.8 となり、0.2 ポイントの増。
- ・「国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。」：
5.7 から 5.6 となり、0.1 ポイントの減。
- ・「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動（ボランティア等）に携わりたい。」：
5.3 から 5.4 となり、0.1 ポイントの増。

・「仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）において、リーダーシップを発揮したい。」:

5.2 から 5.4 となり、0.2 ポイントの増。

・「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」:

5.8 から 6.0 となり、0.2 ポイントの増。

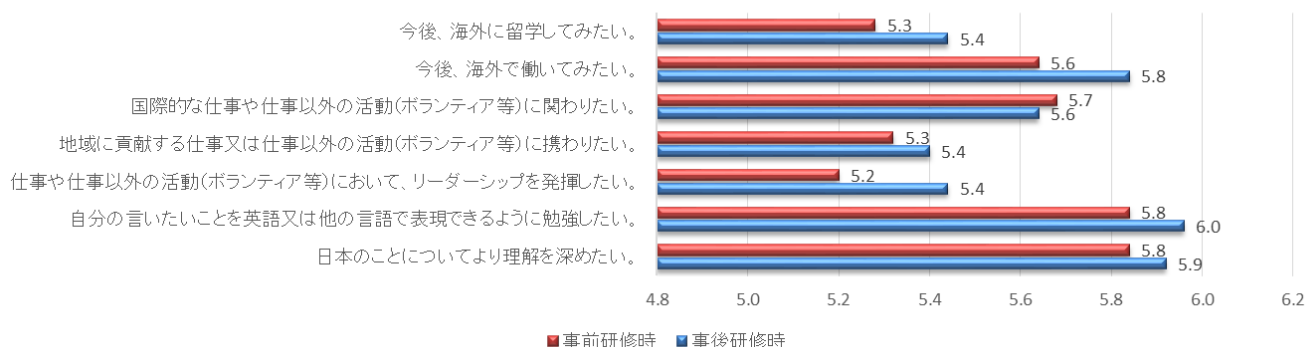
・「日本のことについてより理解を深めたい。」:

5.8 から 5.9 となり、0.1 ポイントの増。

(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

今回の日本参加青年は、プログラムに参加する前からこれらの意識が高く、プログラムを通じて格別大きな上昇は見られなかった。しかしながら、質問 7 項目中 6 項目で伸びが見られ、国際交流プログラムはオンライン交流であっても、自己啓発や社会貢献活動への意識により影響を与えると考察できる。

事業実施前後の意識変化に関する自己評価の増減(ポイント)



Ⅲ 総括評価

最後に、アンケートから日本青年のコメントを抜粋し、今回の総括評価をまとめる。

「プログラム全体を通して、最も印象的だったことは何ですか」の問いに対して、「中国青年が私たちと同じくらい交流したいと思ってくれていたこと」「同世代の学生たちが日中友好のための活動経験をすでに持っていたところ。志高い姿勢にとても刺激を受けた」「これまで中国や中国の方と直接的な関わりがなくても中国に興味を持ち、中国についてより理解を深めたいと思っている学生や社会人の方がいたということ」とのコメントがあった。

このことから、海外にも日本人と交流したいと考えている青年はおり、そのことを実感することが草の根交流の始まりになるのではないかと考察できる。また、交流をするに当たり同じような目的や意識を持った仲間が存在は大きく、それを得ることができる意味でも本事業の価値は非常に大きいと考える。

「プログラム全体を通して、感想や改善点など意見があれば自由にご記入ください」の問いに対して、「本当に貴重な機会をいただいた。コロナウイルスの影響で留学が

1 年間オンラインになって、本当に悔しい思いをしたが、この事業を通して、コロナウイルスを理由にすることなく、中国と関わることができた」「オフラインの派遣事業にも参加したいという気持ちがより一層強まった。休学中で何もできない自分に嫌気がさしていたが、この事業に参加して本当に楽しく、一生の思い出になった。今後も頑張ろうと思えた」「このプログラムに参加したことによって、得るものが多くあったと感じる。プログラムを通して他大学や社会人の方々と中国について一緒に考えることによって、今まで全く知らなかった知識を得ることができたし、それによって自分の考え方も変えることができた」とのコメントがあった。

このことから、現在新型コロナウイルスの影響により国内外の交流活動は非常に限定的になっており、オンライン交流を活用したプログラムは学生等のモチベーションアップにより影響を与えていると考察できる。

以上、評価結果から導き出せることは、本事業の目的である「日本と中国の相互の友好と理解の促進」に関して、日本参加青年は中国への理解や交流プログラムの高い満足度を示すなど、十分な成果を収めたものと評価できよう。